

大隈講堂

校友会費納入のご案内

会員のみなさまへ



早稲田大学校友会
代表幹事 中嶋 宏

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り、誠に有り難く厚く御礼申し上げます。
さて、早速で恐縮でございますが、本年度会費の納入につきましてご協力いただきますようお願い申し上げます。

早稲田大学校友会は、早稲田大学が第1回卒業生を世に送り出した翌年の1885(明治18)年の設立以来、幾多の先輩の努力に支えられ発展してまいりました。現在は総長を会長に、卒業生及び教職員を会員とし、会員相互の親睦を図るとともに母校を支援することを目的に、全国の校友と大学を結ぶパイプ役として活動しております。また、校友会の支部及び地域稲門会など各種稲門会は約700を数え、各方面で多彩な活動が行われております。

さらには、会員のみなさまのご協力により、1994年度からは「校友会給付奨学金」として在学生への援助も開始し、今後更に充実させていきたい所存でございます。

このような校友会の活動は、会員のみなさまからお納めいただく校友会費によって支えられております。何卒、趣旨をご理解のうえ、ご協力賜りますようお願い申し上げます。 敬 具



発行
早稲田大学校友会
鹿児島県支部
住所
鹿児島市金生町3-1
山形屋本部秘書室
☎099 227-6310代

年会費

年度会費 **5,000円** (平成8年4月～平成9年3月)

※今年度より上記のとおり会費を改定させていただきます。

納入方法

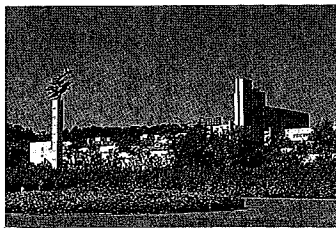
1 「払込用紙」でのお振込

銀行または郵便局にて払込用紙でお振込ください。
(振込手数料不要)

2 早稲田カードの決済口座から自動引き落とし

早稲田カードにご入会いただければ、校友会費は毎年ご指定の口座から自動的に引き落としとなり、払込みの手間が省けて便利です。
早稲田カードのお申し込みご希望の方は、入会申込書を校友会までご請求ください。

3 銀行または郵便局の口座から自動引き落とし



所沢キャンパス

早稲田カードをお持ちでない方で、銀行または郵便局の口座から自動引き落としをご希望の方は、銀行か郵便局かをご指定のうえ、口座振替申込書を校友会までご請求ください。

特典

●「早稲田学報」をお届けします。

学内外の動向や稲門会活動などの情報を満載した校友会発行の総合文化誌「早稲田学報」を年10回お届けします。

●会員名簿が割引価格で購入できます。



早稲田カード入会により校友会費を納入された場合
上記特典に加え早稲田カード独自のサービスを受けられます。

- 中央図書館の入館証となり、スムーズに入館できます。
- 全国各地の協力店で割引などの会員特典が受けられます。
- 「双栴舎」(熱海の坪内遺蹟の元別荘)の宿泊利用ができます。
- 早稲田スポーツ(ラグビー・野球など)に抽選でご招待します。

校友会の主な活動

- 校友会給付奨学金(お納めいただいた会費の約3分の1を充当しております)
 - ～毎年各都道府県から2名、計94名に4年間給付
- 早稲田学報の発行
- 会員名簿の発行・校友データの管理
- 校友関係会合のフォロー
- 早稲田カード事業の支援
 - ～早稲田カード奨学金 毎年各都道府県から2名、計94名に1年間給付
- その他校友へのサービス

校友会費納入状況 (95年11月末累計)

都道府県	納入者	納入率	在住者	都道府県	納入者	納入率	在住者	都道府県	納入者	納入率	在住者
東京都	29,071	28.3%	102,646	福井県	240	25.5%	943	山口県	422	22.9%	1,845
北海道	1,072	32.1%	3,337	長野県	1,000	22.5%	4,446	香川県	342	23.6%	1,450
青森県	265	28.2%	941	山梨県	395	25.0%	1,580	徳島県	201	23.7%	848
岩手県	321	28.3%	1,136	静岡県	1,766	27.4%	6,444	高知県	175	21.5%	814
秋田県	312	24.5%	1,273	愛知県	2,804	30.5%	9,202	愛媛県	303	21.6%	1,400
宮城県	625	29.7%	2,106	岐阜県	559	23.1%	2,423	福岡県	1,483	27.9%	5,315
山形県	284	26.9%	1,054	三重県	544	28.5%	1,909	佐賀県	164	20.4%	802
福島県	524	22.5%	2,326	滋賀県	232	29.3%	793	長崎県	251	26.0%	965
茨城県	1,425	30.7%	4,638	京都府	679	31.1%	2,185	熊本県	324	26.2%	1,236
栃木県	769	25.7%	2,989	大阪府	2,319	36.9%	6,279	大分県	250	23.0%	1,086
群馬県	867	23.6%	3,668	奈良県	449	32.1%	1,400	宮崎県	176	24.6%	715
埼玉県	7,507	29.6%	25,402	和歌山県	234	24.0%	977	鹿児島県	242	19.1%	1,266
千葉県	7,284	29.5%	24,685	兵庫県	1,989	33.2%	5,997	沖縄県	122	35.3%	346
神奈川県	13,368	29.0%	46,165	鳥取県	144	19.5%	737	海外	228	5.8%	3,922
新潟県	865	26.4%	3,275	島根県	149	22.3%	668				
富山県	418	23.5%	1,781	岡山県	516	26.1%	1,975				
石川県	381	26.6%	1,431	広島県	1,012	28.8%	3,512	総計	85,072	28.1%	302,333

職業としての地方自治

東市来町助役

岩 切 久 治 (S 46年政経学部卒)



日常意識するしないに拘らず生活や仕事において地方自治に係りを持つ事は多い。この場合、不満を持つ事が持つまいが、積極・消極どのような姿勢をとろうが構わないし、自由である。場合によっては、それがそのまま住民としての意思ともなりうる。では職業と

しての地方自治にはどのような姿勢が求められるのだろうか。

地方自治は、現在のニーズに的確に対応していく一方で、将来のニーズを予測し必要な布石を打って行かねばならない。時には住民のニーズを一定方向へ導いていく必要も生じる。特に将来への布石は当自治体の浮沈に直接つながる。その為地方自治は公選による首長という政治的機関にイニシアティブを取らせる仕組となっている。

こと仕組の中で、あらゆる立場から首長を補助し、具体的に地方自治を実現させていく手立を講じるのが職業としての地方自治である。彼らは個人的に生活としての地方自治を享受しながら、職業としてそれに関連する専門的技術を駆使しニーズに対応しようと試み続ける。ここでは公僕として心情倫理に立っていけば可である。

ところで、住民の声が身近であればある程、又声が大きければ大きい程、偏りのないニーズ把握は困難である。さらに把握したニーズを施策として仕上げるのは容易ではない。そこに責任倫理に立ちうる政治の存在意義がある。住民のニーズが益々複雑多様化していく今日、首長にとって責任倫理に立つて政策判断する機会は増加している。そしてその準備作業や状況分析に当って彼らは首長の耳目として、時には首長と同じ視線や感覚で地方自治に携わる必要が

生じてくるはずである。すなわち職業としての地方自治にも責任倫理に立つ事が求められることとなる。然し、それは政治的立場を取るものの倫理とは必然的に異なるべきものとも思える。

グリーンクラブ

鹿児島放送制作部長

肥 後 貞 人 (S 51年理工学部卒)



先日、グリーンクラブ(男声合唱団)の同期の学年幹事から電話が来た。

それは、6月8日(土)に『志賀25周年祝賀会』を実施することについての案内の事前連絡であった。「お前、今度東京に來いよ」と言われたが、「行かない」と答えた。

『志賀』とはご存知の方もいるかも知れないが、早稲田の鶴巻町にある赤提灯である。そこへグリーンクラブのメンバーは練習終了後によく通っていた。赤提灯ごときで……と私は思ったのだが、昔の仲間が再び集まって、青春を謳歌する

今回、地方自治の最前線でそれに携わる機会を得た。これまでの県という中二階的な立場と異なり、主権者たる住民の真つ只中に在って生々しい臨場感がある。そして机上論だけではとうてい対処しき

れないような緊迫感を覚える。住民と、政治的に行動することが求められる首長との間にあって、職業としての地方自治にどんな姿勢や倫理が求められるのか、これを奇貨として改めて考えてみたい。

グリーンクラブの仲間からの電話で聞いたところ、今年、鹿児島

ということとは、心休まるものがあると思う。特にグリーンクラブは男声合唱団であるから宴席にはハーマニーがあることは言うまでもない。このクラブは春歌まで合唱してしまふ特技が伝統的にあつたから、盛り上がることは言うまでもない。

グリーンクラブを卒業してから就職したが、その会社には慶応大学ワグネルンサイエティ男声合唱団のOBがいたので、早速カルテットを結成し、グリーンクラブの愛唱歌集などを練習し、結婚式とか舞台で歌ったりもし、歌とはしばらくは離れられなかった。

私は30歳になった昭和57年、KKB開局と同時にKKBへ入社したので、このメンバーともその後お付き合いはないが、鹿児島に戻ってきたからは時折、カラオケでグリーンクラブ(オーオーとうなること)したり、ハモってみたりと

グリーンクラブの仲間からの電話で聞いたところ、今年、鹿児島でセカンドテナー出身の卒業生が京セラに就職して配属になっているので可愛がつてくれとのことだった。そろそろ鹿児島で稲門グリーンクラブが結成できそうな員数になってきたと思うのである。実はKKBにもグリーンクラブに2年ほど在籍していた方がいる。KKBはニュースキヤスターの百田さん(政経40年卒)である。途中で辞めた理由は勉強に励む為?とか、その甲斐あつて朝日新聞社に入れたらしい。

早稲田の鹿児島県の校友会名簿を見る限り佐藤食品工業の佐藤さん、阿久根商店の阿久根さん、南日本銀行の北山さんがグリーンクラブの中退者もしくはOBである。彼等と集まって『都の西北』紺碧の空をハモってみんなに披露できたらいいのになあと思つている。今日この頃である。

世界遺産の島から

屋久島環境文化財団

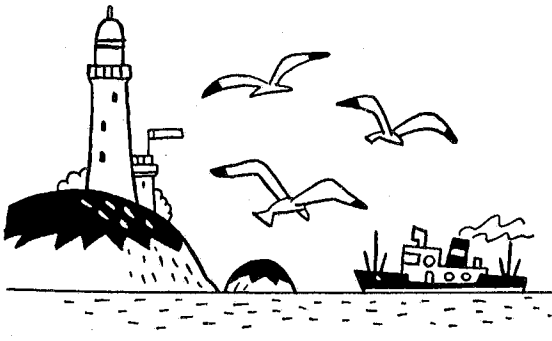
西井上

誠 (S56年政経学部卒)

県庁に入って十数年、このあたりで公私ともに人生の転機としたのかねてからの希望がかない、この四月から念願の離島勤務、そして単身赴任の身となった。

しかも、新たな生活のスタートを切るにふさわしく、新たな組織の中で新たな施設のオープンに向けての仕事をすることになった。

ここ屋久島は、鹿兒島市から南に百三十キロ、黒潮の流れに浮かぶ周囲百キロの丸い島である。洋上アルプスと言われるとおり、九



州最高峰の宮之浦岳をはじめとする峰々がそびえ立ち、海岸から山頂にかけて亜熱帯から冷温帯までのさまざまな植物が他に例を見ない垂直分布を示している。また、「ひと月に三十五日雨が降る」と言われるように年間降水量が一万ミリに達するところもあり、いたるところに大小の滝を伴った清流が流れ、樹齢七千年ともいわれる縄文杉をはじめとする巨杉やそれらをとりにまく樹々が織り成す鬱蒼とした森とあわせて、まさに「森と水の島」と言える。

この類まれな自然とその中で長年にわたって営まれてきた人々の生活は、「自然と人との共生」を掲げた鹿兒島県の「屋久島環境文化村構想」を呼び、さらに平成五年十二月、我が国初の世界自然遺産として登録された。

そして、この構想実現のために、

屋久島の総合的な情報提供・交流・案内の拠点施設である屋久島環境文化村センターが宮之浦港近くに、また、屋久島をフィールドとした環境学習施設である屋久島環境文化研修センターが安房に建設された。この度オープンすることになった。

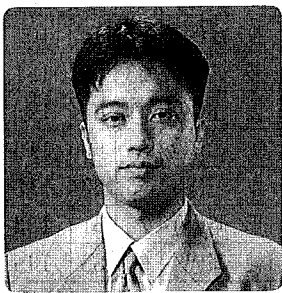
さて、その「自然と人との共生」を率先して実践している私の借家は、山の中腹にあつて周囲一キロ四方に人家もなく、ポンカン園を取り囲む猿害対策の電線付きネットを開閉して出入りしている。夜の山道用に懐中電灯は手放せない。また先日は、夕食後の皿洗いの最中に突然水道が出なくなつた。翌日役場に調べてもらったところ、山水を引いているパイプが折れていたとのこと。水道ではなかったのだから。職員住宅が完成する来年三月までは四苦八苦する状況が続きそうである。

早稲田を離れて早稲田を感じず

三井海上火災保険鹿兒島支店

松原 一樹 (H6年第一文学部卒)

平成元年4月3日、学部入学式を終えた私は早稲田大学応援部の門を叩いた。その日からの5年間、校歌を歌い、紺碧の空で肩を組み、「勝つぞ早稲田」、「頑張れ早稲田」とただ一途に叫び続ける日々であつた。



身体一杯に早稲田を感じ続けた私も、多くの早大生がそう感じるように、何か余生にむけて一歩踏み出すかのように、一昨年卒業した。

最初の赴任地が佐賀県、そして2年目がここ鹿兒島である。私は早稲田から遠く離れて生活することとなった。

ところが、社会人生活を送る私の胸をよぎるのは、「早稲田から離

れて寂しい」というようなものではなかった。一日一日を過ごすにつれて、「早稲田を卒業してからの方が早稲田を強く感じる機会が多いのではないか」と思うようになった。

まず、第1に自分自身に対してである。今までの自分は少なからず早稲田という看板を盾にして進んでいたような気がする。しかし、

社会人になると自分が早稲田という看板を背負っていることをひしひしと感じるのである。ここ鹿兒島支店で早大OBは私ただ1人である。私がなまけたり、弱音を吐いたり、くじけたりすると、どうも「早稲田」というのはそんなもんか、「応援部といつてもたいしたことないな」と言われるような気がする。自分だけならいい、ただ応援部や早稲田の単位で言われるのは許せない。そんなプレッシャーがいつの間にか自分の頑張りの原動力となつていった。

第2に早大OBのつながりである。どこへ行つても早稲田のOBはたくさんいる。そして仲がよい。私は佐賀も鹿兒島も初めての土地であつた。しかし、そのどちらとも先輩方から私に声を掛けて下さり、仲間に加えてもらった。学生時代、校歌を振るためにたくさんOB会に出席してはきたが、OB会というのが、何の利害も無く、ただ先輩・後輩が存在し、こんなにも心地よいものであつたと初めて知つた。

周囲が早大生ではないから、自分が早大生であることを自覚する。ここは、早稲田ではないのだから、たまに会う先輩の優しさがあたたかい。

早稲田から離れてはいるものの、これからも、もっと深く早稲田を感じるのだろうと私は今思っている。

1994年度卒業生の主な就職先 (公務員・教員を除く)

文化系学部 (男子)

Table with 3 columns: 順位, 会社名, 人数. Lists employment destinations for Cultural Department (Men).

文科系学部 (女子)

Table with 3 columns: 順位, 会社名, 人数. Lists employment destinations for Faculty of Letters (Women).

理工学部 (男子・女子)

Table with 3 columns: 順位, 会社名, 人数. Lists employment destinations for Faculty of Engineering (Men and Women).

コンペ成績表

開催日:平成8年4月7日
コンペ名:第23回早慶対抗ゴルフ大会
会場:知覧カントリークラブ

Table with 10 columns: 順位, 氏名, OUT, IN, グロス, ハンディ, ネット. Lists golf tournament results for 23 teams.

早稲田の勝利
通算成績8勝15敗

編集後記
鹿児島県の校友会会費納入率が、全国最低とは寂しい限りです。校友の皆様のご協力をお願いいたします。

平成8年度支部総会開催のお知らせ
早稲田大学校友会鹿児島県支部支部長 松元茂
日時 平成8年9月30日(月) 午後6時~(総会後懇親会)
場所 林田ホテル (☎099-224-4111)
会費 7,000円(運営費込み)
議題 ・平成7年度事業報告及び決算報告の件
・支部役員改選の件
・その他